

三が日も過ぎ、明日が仕事始めという方も、三が日を過ぎたからやっと休める、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

お正月の三が日は、穏やかに過ぎて欲しいと願います。

おせち料理やお雑煮を食べ、子供たちは凧あげやカルタなどで遊び、大人はお祝いのお酒を呑んでゆったりと、テレビを見るなどして過ごすのでしょうか。また、神社仏閣に初詣に出かけたり、初売りの買い物に出かけたりすることでしょう。

曹洞宗の多くのお寺では三が日の朝に、皆様方のいやさかを祈念して法要を営みます。特に大本山や各地の修行道場では、『大般若経』六百巻を用いた、修正会という法要を大勢の僧侶で営みます。そして、皆様に幸多かれと、祈願のお札やお守りをお渡しします。

また、年の初めに一年の幸福をお願いしようと、七福神巡りをする方もいらっしゃるようです。宝船に乗っている七人の神様をお願い事をすれば、きっと幸福な一年であるに違いないと考えるのです。

曹洞宗でも七福神をお祀りしているお寺があります。横浜鶴見にある大本山總持寺には、木彫りでは日本一といわれる百八十センチの大黒様、七福神の中の大黒天がお祀りされており、多くの方がお参りなさいます。

大黒天は、インドの神様であるシヴァ神が仏教に取り入れられ、更に日本では、豊作の神様として七福神の一人になったという経歴があります。インドから中国に仏教が伝わったとき、大黒様は台所の神様としてお祀りされました。

福の神である大黒様は、大きな袋を担いでいます。その袋は福袋といわれます。デパートなどの初売りの福袋は、実は原型は大黒様が背負っている袋なのです。

たくさんの幸せが詰め込まれているものが福袋だとしても、我先にと他の人と争って福袋をつかみ取り、自分の幸せのみを求め、満足することが本当の幸せなのかは疑問です。初詣に行くことも福袋を買うことも、自分が幸せになりたいという願いがあるからでしょう。しかし、その願いが“自分一人だけが”という欲になってしまうと、本当の幸せからは遠ざかっていくのです。

「一年の計は元旦にあり」と申します。一年の初めに、幸せになりたいと願うな

らば、自分のみの幸せだけではなく、他の人の幸せも願うことを心に^と留め、生きる
一年にしたいものです。

— 終 —